

## 追悼記事

## 故 堀田進先生を偲んで

小西 英二

大阪大学微生物病研究所  
寄附研究部門教授

日本ウイルス学会名誉会員で、神戸大学名誉教授の堀田進先生は、平成23年11月17日に御逝去されました。堀田先生と御一緒に長年デングウイルスや日本脳炎ウイルスの研究を続けてきた門下生を代表して、お別れの言葉を述べさせていただきます。

堀田進先生は大正7年9月26日のお生まれで、幼少期からずっと大阪で過ごされました。昭和17年に京都帝国大学（現京都大学）医学部を卒業後、木村廉教授（当時）が主宰されていた同医学部の微生物学講座に入局され、デングウイルスの研究を開始されました。そして、翌昭和18年に、太平洋戦争中の復員兵が東南アジアから持ち帰り長崎で流行したデングの患者さんからデングウイルスの分離に成功されました（英文雑誌での報告は昭和27年）。この時の分離ウイルスは患者さんの名前に因んでデングウイルス1型望月株（Dengue virus type 1, Mochizuki strain）と名付けられ、世界で最初のデングウイルス分離株として認められています。昭和28年から昭和30年まで米国シアトル市にあるワシントン大学医学部に留学され、微生物学講座のCharles A. Evans教授のもとでデングウイルスの研究を行い、昭和33年に同大学から博士号（Ph.D.）を授与されておられます。留学から帰国後まもなく昭和32年に兵庫県立神戸医科大学（昭和39年に国立移管して神戸大学医学部）に教授として赴任されてからも、デングウイルスや日本脳炎ウイルスの研究を続けられ、昭和57年に神戸大学を御退官されるまで、一貫してデングウイルスの研究に邁進されました。さらに、神戸大学御退官後も、昭和60年から平成元年まで金沢医科大学熱帯医学研究所長として同研究所の運営に努められる傍ら、デングウイルスや日本脳炎ウイルスの研究指導にも携わられました。

堀田先生は、太平洋戦争終戦後間もなく、当時の新進気鋭のウイルス学者の諸先生方と共に、昭和24年のウイルス談話会（後の日本ウイルス学会）の発会と、昭和26年からの雑誌「VIRUS」（後の「ウイルス」）の発行に編集委員として貢献されました。創刊号を含む初期の巻号は、数年前に日本ウイルス学会が全巻号のPDF保存版を作成した時に国内の主要大学・研究機関では見つかりませんで

したが、堀田先生が在職された神戸大学医学部微生物学講座に保管されていることがわかり、PDF保存版の原本になったと伺っています。

堀田先生は、デングウイルスの研究を通して、東南アジアとの学術交流を積極的に進められました。その端緒は昭和39年に開始された神戸医科大学インドネシア医学調査隊に遡ることができ、昭和40年には第二次調査隊の隊長としてインドネシア各地で研究調査を実施されました。それらの海外医学学術交流活動が文部省（当時）に評価され、昭和54年の神戸大学医学部附属医学研究国際交流センターの設立に繋がり、堀田先生もセンター長として多大の貢献をされました。なかでも、インドネシア大学医学部長、学長、そしてインドネシア保健大臣を歴任されたSujudi教授と親交が深く、多くの若手（当時）インドネシア人医学教育者・研究者の人材育成にも尽力されました。インドネシアとの活発な学術交流は、日本学術振興会（JSPS）による「アジア地域等学術交流事業・二国間拠点大学事業」や「大型共同研究方式による多国間拠点大学事業」を通してさらに確固たるものとなりました。

さらに、上記の海外学術交流事業は現在では、神戸大学大学院医学研究科感染症センターが担当している「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」や「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム（J-GRID）」（文部科学省）及び「地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）」（科学技術振興機構[JST]/国際協力機構[JICA]）に受け継がれ、益々発展しています。なお、近年のJ-GRIDやSATREPSには堀田先生の御次男である堀田博神戸大学教授が大きな役割を果たしておられ、世代を超えた息の長い学術交流が継続されていることを実感し、神戸大学が最も誇る伝統の一つであると信じています。筆者自身も、その神戸大学で長年デングウイルスや日本脳炎ウイルスの研究を行い、インドネシア人研究者と共同研究することができたのは大きな財産であると自負しています。

このような堀田進先生のデングウイルス研究の御功績及び海外学術交流への御貢献に対して勲三等旭日中授章（1992年）を受章されています。

堀田先生は晩年には足が不自由になり車イス生活を送っておられましたが、デングに対する知的好奇心はすこぶる旺盛で、こつこつと執筆活動を続けておられたようです。御逝去の数ヶ月前に、“Dengue and Dengue Virus”という英文の書物を出版されたと伺っております。なんと約70年間、デング研究を続けてこられたこととなります。筆者

も堀田先生の並々ならぬ向学心を少しでも見習いたいものと思っています。これまでの長い間に堀田先生からいただいた御指導と先生の御功績に対し、尊敬と感謝の意を表しますと共に、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

### 故 堀田 進 先生 御略歴

大正 7 年 (1918)	9 月 26 日	大阪府三島郡茨木町 (現在の茨木市) に生まれる
昭和 17 年 (1942)	2 月	京都帝国大学 (現京都大学) 医学部卒業 医師免許証 (第 104982 号) 京都帝国大学医学部助手
同 年	3 月	同 助手 (デングウイルスの研究を開始)
昭和 23 年 (1948)	9 月	京都帝国大学医学部講師
昭和 24 年 (1949)	6 月	京都大学医学部講師
同 年	8 月	医学博士 (京都大学)
昭和 28 年 (1953)		ワシントン大学医学部 (米国シアトル市) に留学
昭和 31 年 (1956)	5 月	京都大学医学部助教授
昭和 32 年 (1957)	8 月	兵庫県立神戸医科大学教授
昭和 33 年 (1958)	3 月	Ph.D. (ワシントン大学)
昭和 39 年 (1964)	4 月	神戸大学医学部教授
同 年	7 月	神戸大学医学部附属医学研究国際交流センター長
昭和 57 年 (1982)	3 月	神戸大学医学部退官、神戸大学名誉教授
昭和 60 年 (1985)	1 月	金沢医科大学熱帯医学研究所長
平成 元年 (1989)	3 月	金沢医科大学熱帯医学研究所退任
平成 8 年 (1996)		社団法人日本 WHO 協会副会長
平成 16 年 (2004)		社団法人日本 WHO 協会退任
平成 23 年 (2011)	11 月 17 日	御逝去 (享年 93 歳)

#### <御受賞歴>

昭和 35 年 (1960)	11 月	兵庫県科学賞
昭和 40 年 (1965)	4 月	日本感染症学会二木賞
同 年	11 月	兵庫県医学会賞
昭和 47 年 (1972)	12 月	小島三郎記念文化賞
昭和 49 年 (1974)	5 月	神戸新聞平和賞
平成 4 年 (1992)	4 月 29 日	勲三等旭日中授章受章



堀田 進先生